

第 4 回新しい農村政策のあり方に関する検討会

農村地域の活性化に向けて ～香川県拠点の取組み～

令和 2 年 8 月 2 8 日

中国四国農政局香川県拠点

地方参事官 森 寛敬

香川県拠点の取組み2

薬用作物の産地化に向け専門家等との結びつけを企画・調整

薬用作物の先進地域（他県）の視察や専門家からアドバイスを受ける機会を県拠点で企画・調整し後方支援。三豊市は、シンポジウムを開催するなど本格的に薬用作物の産地化を目指し検討開始。

取組概要・効果

○ きっかけ

首長との意見交換（平成30年5月）の際、薬用作物の産地化を目指したいが、ノウハウの不足により検討が進まないとの相談を受ける。

○ 先進地域での現地視察と専門家とのマッチング

近県の薬用作物先進地域の農業者や専門家にアプローチし、現地視察とアドバイスを受ける機会を設定。三豊市からは、引き続き県拠点に協力要請（30年11月）。また、販売先を確保するため、県拠点がアレンジして、生薬取扱業者とマッチング（令和2年1月）。

○ 取り組みの効果・今後の予定

三豊市は県拠点の提案を受け、31年2月、令和2年2月に「薬用作物シンポジウム in みとよ」を開催。今後三豊市は、専門家や市内農業者等の協力を得ながら、栽培技術の確立と産地としての実施体制等を検討し、県拠点が、課題解決に必要なサポートをしつつ、引き続きバックアップ。

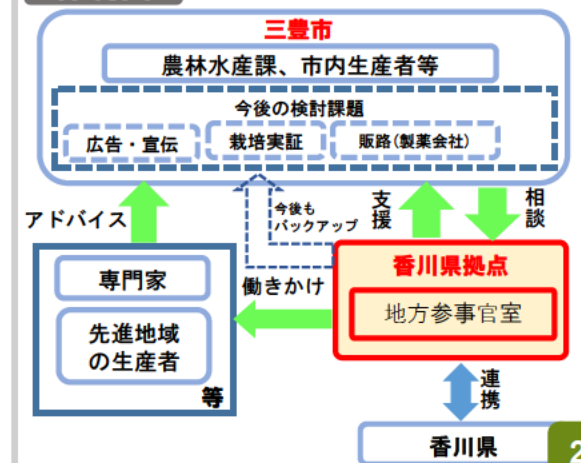
現地視察



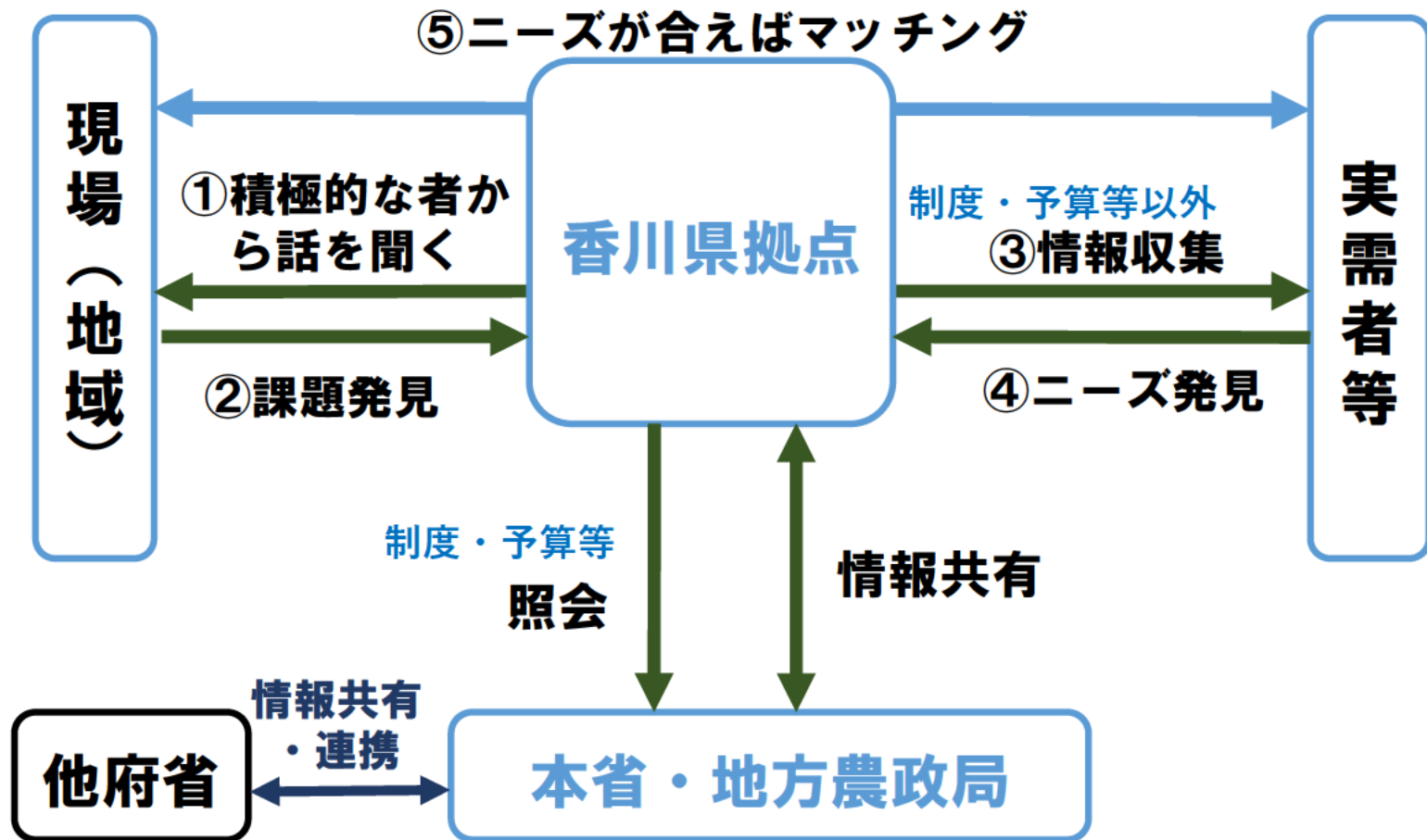
シンポジウム



体制図



香川県拠点のアプローチ



なぜ実需者等とマッチング？

どうしてこんな動きをするのか？



理由1 作れば（マッチングできれば）確実に売れる
〔ただし、将来の需要がついてくるかというリスクは存在〕

理由2 現場（地域）で新しいことをすることや、その具体的な内容についての合意形成を図りやすい
〔変化を嫌う風潮や、会合に出てこずに文句を言う人がいたとしても理解が得られやすい〕

先に出口を見つけて、それをやってみたいという積極的な者につなぐと、実現の確率が高くなるとともにスピード感もでる

ただし、リスクも存在

地域が一体となって活動しない可能性
〔新しい取組をする者が孤立する、
あるいはその逆が起こる可能性〕

地域が一体となって活動できるよう、地域に責任を持って入り込む者が必要（地域内の者でも可）

取組み1：ものづくりセンター長

取組み2：地域おこし協力隊



この者を農林水産省（県拠点）や他府省がサポートする体制・支援が必要

今後の取組み方向

取組み 1

ひまわりオイルの販路拡大

- ・ ひまわりオイルの生産量拡大



- ・ 周辺農業者へ栽培拡大
- ・ 観光客の増加

取組み 2

薬用作物の産地化

- ・ 周辺農業者へ栽培拡大
- ・ 市内で薬草を使った料理が提供



- ・ 薬用作物の産地化
- ・ 市民に薬草が周知される

県拠点が現場に寄り添いサポート

地域が活性化

ご清聴
ありがとうございました